

# 2009年度 エコノメトリックスII&上級エコノメトリックスII

## 第4回宿題解答例

2009年11月13日

### Q. 2.17

FWL定理を用いると、問題の回帰式の両辺に  $M_1$  を掛けた式

$$\begin{aligned}M_1 y &= M_1 \mathbf{1} + M_1 X_2 \beta_2 + M_1 u \\ &= M_1 X_2 \beta_2 + M_1 u\end{aligned}$$

における  $\beta_2$  の最小二乗推定量は、元の回帰式の  $\beta_2$  の最小二乗推定量と一致する。したがって、

$$\hat{\beta}_2 = (X_2' M_1 X_2)^{-1} X_2' M_1 y$$

書き直すと、

$$X_2' M_1 X_2 \hat{\beta}_2 = X_2' M_1 y \quad (1)$$

となる。

次に、元の回帰式の回帰残差について考えてみよう。説明変数ベクトルと残差ベクトルは直行するので、以下の式が成立する。

$$\mathbf{1}'(y - \mathbf{1}\hat{\beta}_1 - X_2\hat{\beta}_2) = 0$$

この式は変形すると、以下のように書き換えることができる。

$$\mathbf{1}'\mathbf{1}\hat{\beta}_1 + \mathbf{1}'X_2\hat{\beta}_2 = \mathbf{1}'y \quad (2)$$

$\mathbf{1}'\mathbf{1} = n$  であるから、(1)式と(2)式をつなげて以下の等式を作ることができる。

$$\begin{aligned}n\hat{\beta}_1 + \mathbf{1}'X_2\hat{\beta}_2 &= \mathbf{1}'y \\ X_2' M_1 X_2 \hat{\beta}_2 &= X_2' M_1 y\end{aligned}$$

これは分割行列を使って以下のように表せる。

$$\begin{bmatrix} n & \mathbf{1}'X_2 \\ 0 & X_2' M_1 X_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \hat{\beta}_1 \\ \hat{\beta}_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \mathbf{1}'y \\ X_2' M_1 y \end{bmatrix}$$

これにより、設問の形で  $\hat{\beta}_1$  と  $\hat{\beta}_2$  を記述できることは明らか。

## Q. 2.20

(注意：授業上の表記と統一するために、以下では  $\iota$  を  $\mathbf{1}$  で表すことにする。) 設問より行列  $X$  の第 1 列が  $\mathbf{1}$  であるから、第  $j$  列 ( $j = 2, 3$ ) を

$$\tilde{x}_j = (x_{1j}, \dots, x_{tj}, \dots, x_{nj})'$$

で表すと、

$$X = \begin{pmatrix} \mathbf{1} & \tilde{x}_2 & \tilde{x}_3 \end{pmatrix}$$

となる。したがって

$$M_1 X = \begin{pmatrix} M_1 \mathbf{1} & M_1 \tilde{x}_2 & M_1 \tilde{x}_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \mathbf{0} & M_1 \tilde{x}_2 & M_1 \tilde{x}_3 \end{pmatrix},$$

ここで、 $M_1 X$  の  $(t, j)$  要素 ( $j = 2, 3$ ) は、

$$x_{tj} - \bar{x}_j = x_{tj} - \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n x_{kj}$$

となる。

また  $P_1 X$  についてみると、

$$P_1 X = \begin{pmatrix} \mathbf{1} & \mathbf{1}\bar{x}_2 & \mathbf{1}\bar{x}_3 \end{pmatrix}$$

のように、 $j$  列の  $n$  個の要素がすべて元の  $X$  の  $j$  列の (算術) 平均になっている行列であることがわかる。

次に、(2.35) 式の性質を用いると、 $P_1 P_X = P_1$  が成り立つので

$$\begin{aligned} M_1 M_X &= (I - P_1)(I - P_X) = I - P_1 - P_X + P_1 P_X \\ &= I - P_1 - P_X + P_1 = I - P_X = M_X \end{aligned}$$

この結果は、 $S^\perp(X)$  の上に射影したどんなベクトルでもその平均 (重心) が 0 になっている、という点で重要である。したがって  $M_1$  を乗じても何の影響ももたらさないのである。

さらに (2.35) 式より

$$P_1 M_X = P_1 (I - P_X) = P_1 - P_1 P_X = P_1 - P_1 = \mathbf{0}$$

が得られる。これにより、どの  $M_X z$  も平均 (重心) は 0 にならなければならないので、それを  $P_1$  で乗ずることは単にゼロベクトルに射影することを意味する。